

鳳凰三山

不死鳥の山

3つの峰が連なる鳳凰三山は、北岳の北東約5キロメートルに位置します。3峰は、北から南に、地藏岳（2,764m）、観音岳（2,841m）、薬師岳（2,780m）です。一見すると、この3峰は一年中雪に覆われているように見えますが、実は山頂は淡い色の花崗岩でできているのです。

鳳凰は日本語で不死鳥を意味します。東アジアの伝統では、鳳凰は平和、繁栄、善政の時に現れ、苦難の時に消える聖なる鳥とされています。これに相応しく、3つの峰にはすべて宗教的な名前が付けられています：地藏は子供と旅人の守護、観音は慈悲の菩薩、薬師は医療と治癒の仏です。

地藏岳の頂上には、一般にオベリスクと呼ばれる高さ20メートルの印象的な岩の尖塔があります。この頂に最初に登ったことが知られているのは、イギリス出身の聖公会宣教師ウォルター・ウェストン牧師（1861～1940）です。熱心なアルピニストだったウェストンは、1896年に自身の登山冒険を記した本『日本アルプスの登山と探検』を出版しました。ウェストンが登

場するまで、日本人は木の伐採や宗教的な修行などの実際的な目的を除いて、山に入るこ
とがほとんどありませんでした。そのため、ウェストンは日本の近代レクリエーション登山の父とみ
なされています。